

第 1 1 回学習意識調査の報告について

学習意識調査は、藤沢市教育文化センターにおいて、1965年（昭和40年）以降、5年毎に実施し、ほぼ同じ質問内容を用いて、市内の中学校3年生を対象に調査し、今回で11回を数えることになった。

今回の調査では、生徒の学習意識がこの50年間でどのように変化したのか、また、前回(平成22年度)以降の5年間で、「学習指導要領の全面実施」や「公立高校の入試制度の変更」などがあったことから、これらが生徒の学習意識にもたらす影響についても注目した。

さらに、新設項目として、「学習方略」(勉強のやり方)を新たに加え、「学習意欲」との相関について調べるとともに、「学習意欲」の向上につながる「学習方略」についても示唆を得たいと考えた。

1. 調査のねらい

その時々における生徒の学習意識だけでなく、時代の趨勢を読み取り、これからの教育の方向を見定める上での重要な基礎資料を得るとともに、その成果を学校教育の計画・立案のための基礎資料として学校現場や教育関係機関等に広く提示していく。

2. 調査対象

藤沢市立中学校3年生全員（全19校、3,566名）

3. 調査の実施期間

2015年（平成27年）5月13日（水）～6月22日（月）

4. 調査項目

資料「調査報告書(抜粋)」参照

5. 特徴的な結果について

- ①「帰宅後の勉強時間」及び「学校の勉強の理解度」が増加
- ②「勉強の意欲」の二極化傾向（「もっと勉強をしたい」の増加が見られたが、「勉強はもうしたくない」も増加）
- ③「学校の中で一番大切に思うもの」で、「友達づきあい」が減少し、「勉強」が増加
- ④「学校以外での習い事」における「学習塾」の増加
- ⑤「勉強のイメージ」で、「受験の準備」や「学校の授業」が増加し、「興味・関心のあ
ることを学ぶ」、「人とのかかわり方を学ぶ」、「自分の生き方を見つける」が減少
- ⑥新設項目「学習方略」と「学習意欲」との正の相関関係を確認

6. 今後の予定

- 4月 教育委員会定例会で報告
- 4月下旬 調査報告書を藤沢市立小・中・特別支援学校55校へ配布
- 5月下旬 調査報告書を県内外の教育研究所、教育委員会関係諸機関に配布
- 6月 子ども文教常任委員会に報告
- 8月下旬 教育文化講演会 この調査結果をテーマにシンポジウムを開催予定
市内教職員への周知のため「ふじさわ教育」（教育文化センター発行）で分析
等掲載予定

※ このほか教育課題調査研究部会において、調査結果の活用について検討していく

以上